

## II. 活動報告

work  
life  
balance  
innovation

# ① 意識改革

◎work◎life◎  
balance innovation

## ①-1 | 管理職セミナー

まず、主として管理職の意識改革を図るため、理事、学部長、副学部長、学科長及び課長職以上の職員を対象として管理職セミナーを2回実施した。

年月日	題 目	講 師	参加人数
第1回 2009.9.11	「セカンドステージに入った男女共同参画～大学は『21世紀最重要課題』をどう受け止めるべきか～」	鹿嶋 敬氏	49
第2回 2009.12.2	「ワークライフバランスを実現するために：管理職の役割と働き方の改革」	佐藤 博樹氏	50

### 平成21年度 第1回「男女共同参画」セミナー

日時：平成21年9月11日（金）14:00～16:00

場所：山形大学小白川キャンパス事務局第1会議室（医・工・農学部はテレビ会議システムを利用）

講演：鹿嶋 敬氏（実践女子大学教授・内閣府男女共同参画会議議員）

題目：「セカンドステージに入った男女共同参画～大学は『21世紀最重要課題』をどう受け止めるべきか～」



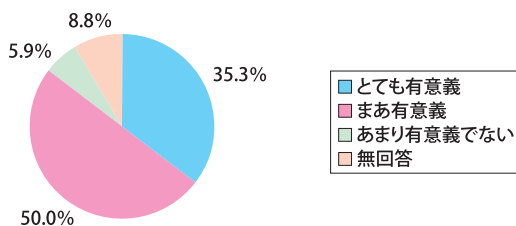
鹿嶋 敬氏



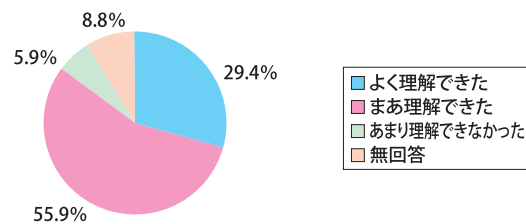
役員・学部長・学科長など49人が参加

アンケート結果（34人回収）：85.3%が有意義と回答

① 問1 セミナーは有意義でしたか



② 問2 内容は理解できましたか



## ③問3 要望や感想を自由にお書きください。

- ・今回は概論的なお話で男女共同参画の理念を理解する上で有効でしたが、今後大学としての取組の良い例等をお話ししてほしいと思います。
- ・ワークライフバランスはなるほどと納得した。精神衛生にも効果がある生き方ですね。
- ・ワークライフバランスから見た超過勤務の削減
- ・多様なという言葉のすり替えが雇用形態を破壊し社会の仕組みを変えてしまったのでは。
- ・意識・認識を新たにできるテーマで引き続きお願いしたい。

## 平成21年度 第2回「ワークライフバランス」セミナー

日時：平成21年12月2日（水）15:30～17:30

場所：山形大学小白川キャンパス事務局第1会議室（工学部・農学部はテレビ会議システムを利用）

参加人数：50人

講演：佐藤 博樹氏（東京大学社会科学研究所教授）

題目：「ワークライフバランスを実現するために：管理職の役割と働き方の改革」



佐藤博樹氏

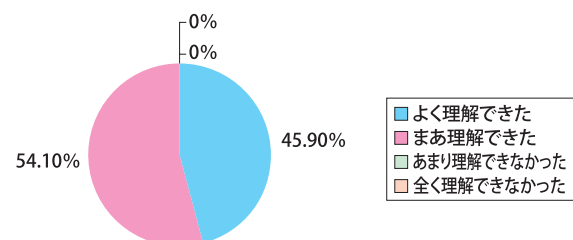
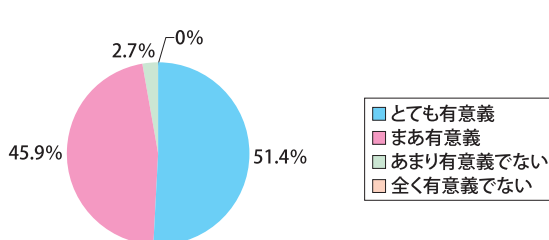


役員・管理職など50人が参加

アンケート結果（37人回収）：97.3%が有意義と回答

① 問1 セミナーは有意義でしたか

② 問2 内容は理解できましたか



## ③問3 要望や感想を自由にお書きください。

- ・時間を資源と考える点に共感しました。
- ・時間生産性を上げるために職員の意識をぜひ変えていきたい。
- ・自分のこれまでの生活を考え直すキッカケになった。
- ・WLBは福利厚生ではなく、働き方を変え企業の効率さを改善することだと分かりました。
- ・WLBの必要性について認識しなければならない。今直ぐにでも。どの部署も同じ。
- ・ワークライフバランスという言葉ははじめてだったが、とてもすばらしいネーミングだと思った。この一声で人の一生に起こる全ての困難への支援を連想できる。
- ・時間の使い方＝時間をかけるばかりではダメ。部下の能力を超える仕事は部下を伸ばす。

## ①-2 | 男女共同参画シンポジウム

男女共同参画およびワークライフバランスの実現による女性研究者支援を主なテーマとして学内教職員・学生をはじめ広く学外の関係機関や一般の方々を対象として男女共同参画シンポジウムを5回実施した。

回・年月日	テーマ	基調講演者	参加数
第1回 平成21年1月23日	男女共同参画△シンポジウム ～本格スタート！山形の男女共同参画～	板東久美子氏 (内閣府男女共同参画局長)	170
第2回 平成22年2月12日	男女共同参画シンポジウムin2010 見つけよう！あなたのワークライフバランス	有賀 早苗氏 (北海道大学副理事・女性研究者支援室長)	122
第3回 平成22年11月12日	男女共同参画 国際シンポジウム 「女性研究者の育成と支援」	郷 通子氏 (情報システム研究機構理事 前お茶の水女子大学長) キャロライン・ケイン氏 (カリフォルニア大学バークレー校名誉教授)	130
第4回 平成23年11月11日	女性研究者の活躍と裾野拡大 ～大学連携を通して～	笹井 弘之氏 (文部科学省生涯学習政策局 男女共同参画学習課長)	104
第5回 平成24年3月8日	「山形ワークライフバランス・イノベーション」 の発展に向けて	山村 康子氏 (科学技術振興機構科学技術システム 改革事業プログラム主管)	94

### 第1回 平成20年度スタートアップ・シンポジウム

#### 男女共同参画△シンポジウム

#### ～本格スタート！山形の男女共同参画～

日時：平成21年1月23日（金）13:30～17:00

場所：山形大学小白川キャンパス127教室

(教養教育棟1号館2階)

(医学部・工学部・農学部はテレビ同時配信)

参加人数：170人

採択：山形大学男女共同参画推進宣言



結城章夫学長「山形大学男女共同参画推進宣言」を発表。

山形大学  
男女共同参画△シンポジウム  
～本格スタート！山形の男女共同参画～

みんなで  
さんかく

【基調講演】  
板東久美子氏 (内閣府男女共同参画局長)  
【パネリスト】  
板東久美子氏 (内閣府男女共同参画局長)  
郷通子氏 (お茶の水女子大学名誉教授)  
荒木由幸子氏 (山形大学准教授)  
坂本由美子氏 (山形新聞記者)  
大森征樹氏 (日本たばこ産業株式会社)  
高木直 (コーディネーター・地域教育文化学助教授)

平成21年1月23日(金)13:30-17:00  
山形大学小白川キャンパス127教室  
(教養教育棟1号館2階)  
※医・工・農は、テレビ同時配信します。  
医学部：視聴覚教室 (学生実習講義棟2階)  
工学部：中示範C教室 (講義棟2階)  
農学部：402講義室 (3号館4階)

主催：山形大学  
後援：山形県 山形新聞 山形放送  
AISOHO企業組合  
(特) やまがた青瓷サークルランド

■申込み方法 氏名・住所・電話番号を記入の上、お申し込みください。  
山形大学男女共同参画推進宣言  
〒980-8577 山形市青葉区山形1-1-1 山形大学男女共同参画推進宣言事務局  
TEL: 011-825-4225 FAX: 011-825-4225  
E-MAIL: smp@ipc.yamagata-u.ac.jp

基調講演：

板東久美子氏

(内閣府男女共同参画局長)

題目：「女性研究者の活躍をめざして」



板東久美子氏

パネルディスカッション：

パネリスト

塩満典子氏（お茶の水女子大学教授）


荒木由季子氏（山形県副知事）

坂本由美子氏（山形新聞編集局報道部  
主任）

大森征樹氏（日本たばこ産業株式会社）

山形大学  
**男女共同参画△シンポジウム**  
～本格スタート! 山大的男女共同参画～

【プログラム】  
13:30 開会  
13:35 基調講演




**板東 久美子氏** (内閣府男女共同参画局長)  
徳島県出身。東京大学法学部卒。1977年、文部省（当時）入省。生涯学習局婦人教育課長、文化庁著作権課長を経て、秋田県副知事、文部科学省に及び、高等教育局高等教育企画課長、大臣官房人事課長などの後、現職。

「女性研究者の活躍をめざして」

政府は、平成17年12月に閣議決定された「男女共同参画基本計画（第2次）」において、科学技術分野を新たに取り組むべき分野と位置づけ、男女共同参画推進を一層進めることとしている。しかし、現状では女性研究者の割合は12.4%（平成19年）と他の先進国の1/2から1/3の水準となっており、特に理工系分野の割合が低い状態である。このような現状の分析を紹介し、今後、我が国が科学技術の分野において国際競争力を維持・強化するために必要な、男女共同参画やワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について政府の取り組みを紹介する。

14:35 休憩（15分間）

【Memo】



14:50 パネルディスカッション

コーディネーター/  
**高木直** (地域教育文化学部教授)  
コメンテーター/  
**板東久美子氏**


パネリスト/  
**塩満典子氏** (お茶の水女子大学教授)  
1984年、東京大学理学部卒、科学技術庁（現文部科学省）入庁。1990年、ハーバード大学行政大学院公共政策学修士。文部科学省宇宙政策課調査国際室長、奈良先端科学技術大学院大学教授、内閣府男女共同参画局調査課長等を経て現職。2007年、日本女性科学者の会功労賞受賞。

**荒木由季子氏** (山形県副知事)  
1983年、通商産業省（現経済産業省）入省。博覧会推進室長、資源エネルギー庁新エネルギー対策課長などを経て、2006年7月国土交通省総合政策局観光経済課長、2008年7月より現職。

**坂本由美子氏** (山形新聞編集局報道部主任)  
新庄市出身。山形大学卒。1998年入社。長井支社、本社社会部を経て、現在、山形市政と、県内の子育て情報を掲載する「やまがた わいおい子育て」（毎週月曜朝刊）を担当する記者。

**大森征樹氏** (日本たばこ産業株式会社)  
仙台市出身。1997年、日本たばこ産業株式会社入社。経営企画部、食品事業本部等を経て、2007年7月より人事部。現在は、要員計画などの人事職務を担当。2006年、2008年の二度、育児休暇を取得。

16:50 男女共同参画推進宣言  
16:55 閉会



## 第2回 平成21年度シンポジウム

### 男女共同参画シンポジウムin2010

「見つけよう！あなたのワークライフバランス」

日時：平成22年2月12日（金）13:30～17:00

場所：山形大学小白川キャンパス127教室

（教養教育棟1号館2階）

（医・工・農学部はテレビ同時配信）

参加人数：122人

山形大学  
平成21年度男女共同参画シンポジウム  
「見つけよう！あなたのワークライフバランス」  
in 2010

見つけよう！  
あなたのワークライフバランス

WORK LIFE

【日時】  
平成22年 2月12日(金)  
13:30～17:00 (開場13:00)

【会場】  
山形大学  
小白川キャンパス127教室  
(教養教育棟1号館2階)

【基調講演】  
有賀 早苗氏  
北海道大学副理事・女性研究者支援室長  
大学院農学研究科教授  
「ワークライフバランスを支える環境と覚悟」  
～女性研究者支援から見てきたこと～

【パネルディスカッション・パネリスト】  
鏡 京子氏 (山形子ども保健室長)  
村上 浩氏 (社内総務 人事課副課長)  
北野 進世 (山形大学理事 男女共同参画推進室長)  
加々島 慎一 (山形大学理学部 准教授)  
佐々木 由佳 (山形大学農学部 助教)

●申し込み方法  
氏名・住所・電話番号をご記入の上、お申し込みください。(当日参加を希望の方は、別途お申し込みください)  
応募先：(お子様の年齢と性別もご記入の上、希望にお申し込み下さい)メール:jimu@aisoho.jp FAX:023-673-0703  
主催：山形大学  
後援：山形県、山形市、山形新聞・山形放送 (特)やまがた育児サークルランド、NPO法人 山形親子育児支援ネットワーク、AISOHO企業組合

基調講演：

有賀早苗氏（北海道大学副理事・女性研究者支援室長・大学院農学研究科教授）

題目：

「ワークライフバランスを支える環境と覚悟～女性研究者支援から見てきたこと～」



有賀早苗氏

山形大学  
男女共同参画シンポジウム  
見つけよう！あなたのワークライフバランス in 2010

プログラム

13:30…開会の挨拶  
13:40…基調講演

有賀 早苗氏  
北海道大学副理事・女性研究者支援室長  
北海道大学大学院農学研究科 生命科学環境分子生物学研究室教授  
昭和61年 東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。専門は分子生物学・生化学。研究教育活動の傍ら女性研究者支援にも精力的に取り組む。北海道大学の科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業（H18年度～H20年度）や、北海道大学独自の支援プラン「ポジティブアクション北方式」の導入を主導する。同大学が展開する女性研究者の採用促進や研究環境の整備事業は、全国の大学等研究機関から注目されている。

「ワークライフバランスを支える環境と覚悟」  
～女性研究者支援から見てきたこと～

女性研究者の活躍促進が国策となった理由・背景には、社会全体の男女共同参画推進、研究者の女性比率がOECD等主要先進国中で最下位という不名誉もありますが、一番の原動力は少子化だと思われま。少子化により懸念される科学技術人材を確保するため「女性も」活用しよう、少子化が問題なのだから女性を働かせるだけではなく子ども産んでもらわなくては困るので「しっかり働き、産み育てろ、そのために多少の支援はしてあげるから」というのが本音ではないかと思えます。「女性研究者支援元年」と呼ばれる平成18年には、第3期科学技術基本計画の中に女性研究者活躍促進が数値目標付きで明記されたことを受けて、文部科学省科学技術振興調整費事業として「女性研究者支援システム改革」が開始され、日本学術振興会特別研究員制度にも出産・育児等による研究中断からの復帰支援枠（RPD）が設けられました。翌19年度には内閣府が「女性の参画加速プログラム」の重点推進分野として医師、研究者、公務員を挙げ、さらに平成20年を“仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）元年”としています。このワーク・ライフ・バランスという魅力的な言葉の真の意味を見失わずに、女性研究者活躍促進が科学技術の進展に寄与していくためには、女性研究者自身の意識改革と、彼女達が所属する大学等研究機関の組織環境整備が重要だと考えます。科学技術創造を支える多様な人材として望まれる女性研究者達も多様多岐です。それぞれが自身の選択するワーク・ライフ・バランスに前向きな覚悟を持ってのびのびと活躍できる支援策や環境整備は、女性に限らず男性研究者の活躍促進・科学技術の発展に繋がると考えています。

14:40…休憩（10分）  
14:50…山形大学教職員のWLBの現状

報告/坂無 淳（山形大学男女共同参画推進室助教）  
木村 松子（山形大学男女共同参画推進室准教授）

報告：山形大学教職員のワークライフバランスの現状



報告1  
「アンケート調査の結果から」  
坂無 淳  
(男女共同参画推進室 助教)



報告2  
「巡回相談から」  
木村松子  
(男女共同参画推進室 准教授)

パネルディスカッション：  
パネリスト



鏡 京子氏 (山形県子ども政策監)  
村上 浩氏 (荘内銀行人事部副部長)  
北野通世 (山形大学理事・副学長  
男女共同参画推進室長)  
加々島慎一 (山形大学理学部准教授)  
佐々木由佳 (山形大学農学部助教)

14:50…パネルディスカッション

コメンテーター/ 有賀 早苗氏  
コーディネーター/ 幅崎 麻紀子 (山形大学男女共同参画推進室助教)  
[パネリスト]

**鏡 京子氏** (山形県 子ども政策監)  
昭和50年4月に山形県庁に入庁。その後、文化環境部文化振興課男女共同参画室長、商工労働観光部雇用労政課長、文化環境部女性青少年政策室長、村山総合支庁事務企画部長を歴任。平成21年4月には、女性初の部長級職員として子ども政策監に就任。

**村上 浩氏** (荘内銀行 人事部副部長)  
平成7年度、平成8年度の2年間「荘内銀行従業員組合執行委員長」として、組合員の立場から経営側と一緒に人事制度改定・労働環境改善などの取組を行う。人事部企画部門、新橋支店長(湯田市)・庄内支店支店長・秋田支店支店長などを歴任し、平成19年11月より現職。人事

**北野 通世** (山形大学理事・副学長 男女共同参画推進室長)  
専門分野は刑法学。昭和52年東北大学大学院法学研究科中退。昭和55年弘前大学講師。その後助教授を経て、昭和63年山形大学人文学部助教授。平成4年山形大学人文学部教授。平成19年9月山形大学理事・副学長。

**加々島 慎一** (山形大学理学部 准教授)  
長野県松本市出身。2001年9月新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程修了。2003年2月山形大学理学部助手。2004年11月～2005年3月第46次日本南極地観測隊副隊長。2007年4月助教。2009年10月より現職。専門は地質学・岩石学。6歳、4歳、1歳の子供を抱え公私共に奮闘中。

**佐々木 由佳** (山形大学農学部 助教)  
2002年若手大学院院連合農学研究科博士課程修了。山形大学農学部非常勤講師。(独)農業環境技術研究所ポスドクを経て2004年3月から現職。土壌の性質と気象の特徴に対応した適切な水稲栽培技術を研究中。

16:50…閉会

仕事と生活の調和が実現した社会とは  
国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会 (出典) 内閣府「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス) 憲章」

アンケート結果 (56人回収)：

- ①「基調講演は参考となった。」と100%が回答。
- ②「パネルディスカッションは参考となった」と85.9%が回答。
- ③要望や感想を自由にお書きください。
  - ・有賀先生のお話が大変興味深く、楽しく聞かせていただきました。
  - ・様々な立場の方のお話を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごせました。
  - ・講演はすばらしかったのですが、研究者に限った内容だったのが残念です。
  - ・聞き取り相談でなかなか表に出てこない意見を汲み取ってもらえてよかった。
  - ・先生方の深い悩みを目の当たりにして、改めて大変さを痛感しました。

### 第3回 平成22年度シンポジウム

#### 男女共同参画 国際シンポジウム

#### 「女性研究者の育成と支援」

日時：平成22年11月12日（金）13:00～16:50

場所：山形大学小白川キャンパス

（基盤教育1号館121教室）

（医学部・工学部・農学部はテレビ同時配信）

参加人数：130人



#### 特別講演 I：

郷通子氏（大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事、前お茶の水女子大学長）

#### 題目：

「女性研究者のエンパワーメントと活躍にむけて」



郷通子氏

**講師プロフィール**

**郷通子 (こうみちこ) 氏 Dr. Mitiko Go**

前お茶の水女子大学長、名古屋大学名誉教授、現職は大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事（非常勤）など。専門分野は生物物理学、生命情報学、進化生物学。名古屋大学大学院理学研究科博士課程（物理学専攻）修了（理学博士）、コーネル大学化学教育士研究員、九州大学理学部生物科学科助手、名古屋大学理学部生物科学科教授、東京大学分子細胞生物学研究所主任（専員教授）、名古屋大学評議員、高浜バイオ大学バイオサイエンス学部教授（学部長）、国立大学法人お茶の水女子大学学長（2009-2009）、内閣府科学技術政策委員（2002年度）、中日文化賞（2004年度）、日本化学会賞（木村資生記念学術賞）（2008年度）[タンパク質の立体構造と遺伝子の構造の進化の共通性に関する研究]を授賞、学会活動として、日本生物物理学会会長、日本化学会会長、日本蛋白質学会副会長、日本分子生物学会評議員、日本生化学会理事、日本遺伝学会評議員などを歴任。政府委員として、総合科学技術会議評議員、文部科学省科学技術・学術審議会委員、文部科学省中央教育審議会委員、内閣府外務省共同委員、第20期日本学術会議委員、第21期日本学術会議議事録委員などを歴任。

**「女性研究者のエンパワーメントと活躍にむけて」**

わが国は先進国の中で、女性の社会進出が大幅な遅れをとっており、特に、大学などの研究者に女性が占める割合は13%という低い数値である。先進国の多くが30%を越えている事実を見ると、これは驚かたて低い。国、地方、企業などの機関の意思決定の場での女性の比率はさらに低い。出産により、女性のライフスタイルは、男性のそれとは異なってくる。この科学的に明白な事実が、社会で認められていない現実を覆えていくことによって、女性研究者も男性研究者も、より豊かな環境で働く社会が実現できるであろう。出産・育児による研究へのしわ寄せや職位撤退を最大限に減らすことは、人的資源を活かすことしか無い我が国の最重要課題のひとつである。最近、女性研究者の支援プログラムを大学などの組織が、様々な形で遂行している。研究・教育活動を発展させるために、女性研究者のエンパワーメントも大切な課題である。各種の取り組みを紹介しながら、女性研究者への期待を膨らませていく道筋を考えてみたい。

**“Empowerment and Active Role of Female Researchers”**

Japan has considerably lagged behind other advanced nations in terms of women's participation in society and the ratio of female researchers in the universities is as low as 13% in particular. Given the ratio in many developed countries being over 30%, this figure is extremely low. The proportion of women in decision-making process at national and local governments as well as private companies is much lower than this. It is obvious that women are biologically quite different from men since women are designed to give births. This is scientifically clear and by admitting this evidence, both men and women can create better and profoundly comfortable work environment. It is very unfortunate to say that it is not quite admitted into our working environment yet. To make the most of human resources is one of the most important issues in Japan. In order to accomplish it, we have to remove all the obstacles women have to face such as leaving the position due to giving births and raising children.

Recently, organizations such as universities are promoting female researchers support programs in a variety of ways. Empowering female researchers is also important for the sake of development of research and educational activities. While dwelling on several initiatives, I would like to consider a path which helps female researchers have more expectation toward their careers.



特別講演Ⅱ：

キャロライン ケイン氏（カリフォルニア大学バークレー校 分子細胞生化学部名誉教授）

題目：

「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために～男女共同参画に向けて～」



会場との質疑応答

**プログラム**  
平成22年11月12日(金) 13:00～16:50 山形大学小白川キャンパス 基礎教育1号館2階 121教室

13:00～13:15 開会の挨拶  
13:15～14:15 特別講演Ⅰ 櫻井子氏 「女性研究者のエンパワメントと活躍に向けて」  
14:15～15:30 特別講演Ⅱ (通訳付き) キャロライン ケイン氏 「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために～男女共同参画に向けて～」  
15:30～15:40 休憩  
15:40～16:40 質疑応答  
16:40～16:50 閉会の挨拶

**キャロライン ケイン氏 Dr. Caroline Kane**  
カリフォルニア大学バークレー校分子・細胞生化学部名誉教授。  
バークレー校の研究で転写制御を専門とする一方、地域や国の機関と協力して学内での教育または教職への公正なアクセス(権利)を拡大するよう取り組んできた。また、学生の多様な発達プログラムで19年目を迎える「バークレー校・産後学術奨励者プログラム」の設立に貢献した。生化学という専門職に興味を抱く人々がその機会を最大限に活用できるように取り組んでいる。

「大学における教職員の採用と活躍を拡大するために～男女共同参画に向けて～」  
“Issues and Solutions for Maximizing Faculty Opportunity in Higher Education: Women and Men Moving Forward Together”

History repeats itself, and history is often lost. Women had prominence in society and in higher education in ancient history on several continents. In 2010, women have entered leadership positions in higher education in many countries and societies. However, even in those countries and societies, women's stature has not progressed to equality with that of men. Sometimes men of lesser accomplishment are promoted while women are not. The complex reasons for this differential include institutional roadblocks as well as individual decisions. The focus of this discussion will not be on blame, but on strategies for solutions. In these strategies, women and men must be partners. When men are in the leadership positions, the men also must be drivers that include the women faculty in their participation in the academic community. However, the women also move their own professional advancement forward by creating communities of scholars who share their experiences with those entering higher education. These women also must be persistent, and educate and inform men in higher education again and again about their partnership in the academic community. The strategies that have been successful, as well as newer strategies being employed, in the United States will be reported. There remains much work to be done and much to be learned from all countries as the intellectual power of women (50% of the population) must be marshaled to move education and economies forward in all countries.

歴史は繰り返す。時に歴史は失われる。女性は古くから社会や高等教育において優秀な存在であった。2010年、多くの国や社会で、女性は高等教育においてリーダーシップをとるようになった。しかし、それらの国でさえ、女性の能力は男性と平等には評価されていない。時には女性が全く評価されず、業績の低い男性が昇進している。この原因は複雑だが、それは個々に原因があるのみならず、制度上の障害に因るものである。ここでは、それを非難するのではなく、解決策に焦点を充てたい。そのためには、女性と男性はパートナーでなくてはならない。男性が指導的地位にある場合は、男性は女性の研究者をアカデミックなコミュニティに招き入れる存在でなくてはならない。しかし、女性自身も、高等教育に加わった経験を活かして学術界のコミュニティを作ることで、向上していくのである。女性たちは高等教育に携わる男性たちへ、アカデミックコミュニティにおける男女共同参画について、粘り強く訴えていかねばならない。人口の50%を占める女性の知的な力が、教育と経済を発展させるにちがいない。米国で採用されている成功例だけでなく、新しい方法も考えられつつある。多くの国から学ぶべきことと行動すべきことが残されている。

アンケート結果（42人回収）：

①「シンポジウムは有意義だった」と90.0%が回答。

②要望や感想を自由にお書きください。

- ・両先生のご講演は、大学の管理職者の意識改善に大きなインパクトを与えたのではないかと感じられました。最高のロールモデルでした。
- ・大学関係者ではないので、自身の業務に活かせる部分は少ないと感じた。ただ、日本以外の男女共同参画の取組に触れるのは初めてだったため、その点では有意義であった。
- ・今回のような講師の方のお話は大変すばらしい。なかなかお聴きできないので、女性研究者のお手本。パワーをいただきました。
- ・お二人とも、ご自身の体験のお話もあり、大変参考になりました。会議短縮（9時～5時）がぜひ実現できれば。講演の通訳がうまく対応していないのが気になりました。
- ・出産時にキャリアをあきらめてしまう方が今もなお多いので、しっかり働ける時期がその後にあるのだと知ってもらえるこのような体験談を聞ける場をさらに提供してほしい。
- ・女性研究者はもちろん若手研究者のポジションをいかにして確保していくかはかなり深刻な問題です。この問題が少しでも改善されない限り、女性研究者も増えないでしょう。
- ・一人の“生き方”をそれぞれ発表してくれたことがとてもよかった。
- ・事前に資料を配付してくれればよかった。

# 第4回 平成23年度シンポジウム

## 男女共同参画シンポジウム

### 「女性研究者の活躍と裾野拡大

～大学連携を通して～

日時：平成23年11月11日（金）13:30～17:50

場所：山形テルサ（山形市双葉町1-2-3）

参加人数：104人



## 第一部

基調講演：

笹井弘之氏

（文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長）

題目：

「科学技術・学術分野における男女共同参画の推進～第3次男女共同参画基本計画の策定を踏まえて～」



笹井弘之氏

**開催趣旨**  
第3次男女共同参画基本計画が平成22年12月に閣議決定され、新たな分野として「科学技術・学術分野における男女共同参画」が設定されて次の段階へと取組が進められています。山形大学では、平成21年1月に「男女共同参画推進宣言」を発表し、すべての学生と教職員が性別にかかわらず個性と能力を發揮できる大学作りの推進、特に女性研究者比率の向上、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）等の実現を目指しています。本シンポジウムは、県内の大学運営関係者、高等学校関係者、地域のの方々等、多様な方々が集い、教育・研究分野における男女共同参画についての情報交換と交流を通して連携・協働による各機関の発展と地域の活性化を目指すものです。

**取組報告**  
「山形大学における取組からみえてきた成果と課題」  
「アンケートの経年変化から」 坂無 淳（山形大学男女共同参画推進室助教）  
「聞き取り調査から」 幅崎 麻紀子（山形大学男女共同参画推進室助教）

**パネルディスカッション**  
コーディネーター 伊藤真知子氏（東北公益文科大学教授）  
コメントーター 笹井 弘之氏

**（パネリスト）**  
遠藤 恵子氏（山形県立米沢女子短期大学長）  
大河内邦子氏（福岡工業高等専門学校総合科学科教授・図書館長）  
工藤 教和氏（東北公益文科大学副学長）  
菅原 京子氏（山形県保健医療大学保健医療学部看護学科長）  
北野 通世（山形大学男女共同参画推進室長）

取組報告：「山形大学における取組からみえてきた成果と課題」



報告1  
「アンケートの経年変化から」  
坂無 淳  
(男女共同参画推進室助教)



報告2  
「聞き取り調査から」  
幅崎麻紀子  
(男女共同参画推進室助教)

パネルディスカッション：テーマ「女性研究者の活躍に向けた大学連携」



「山形大学の取組」  
北野通世 (男女共同参画推進室長)



ディスカッション  
山形県内5高等教育機関の運営関係者

満場一致で採択：

## 男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言

- 1 男女共に学びやすく働きやすい環境づくりをめざして、一層取り組んでいきます
- 2 男女共同参画の推進のため連携とネットワークづくりを進めていきます。

2011年11月11日

「平成23年11月11日男女共同参画シンポジウム」参加者一同

当日は、山形県における5つの教育研究機関の関係者をはじめ、高等学校関係者、一般の方々など多様な人々が集まりました。

講演・シンポジウムを通して、科学技術・学術分野においても男女共同参画を推進し、多様な視点や発想を取り入れた教育研究活動が活性化することが重要であること、女性の能力を最大限に発揮できるようにするには、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）が図られるような環境の整備が不可欠であること、女子高校生の理系進学を促すことも大切であることが話し合われました。また、女性研究者の活躍と裾野拡大を推進するためには、高等教育機関が相互に連携すると共に、高等学校等とも手をつないだ活動が大切であることが話し合われました。

これらの課題の解決に向けて、交流と連携を深め、男女共同参画を推進していくため、シンポジウム参加者によって上記の「男女共同参画に向けた大学連携・山形宣言」が採択されました。

## 第2部 パネルトーク

テーマ：

「女子高校生☆夢に向かって！～女性研究者が疑問にお答えします～」

**プログラム**

13:30～13:40 開会の挨拶  
13:40～14:30 基調講演  
14:30～14:40 休憩  
14:40～15:00 取組報告  
15:00～16:20 パネルディスカッション  
16:20～16:30 休憩  
16:30～17:40 パネルトーク  
17:40～17:50 開会の挨拶  
18:00～ 情報交換会

〈第2部〉テーマ「女子高校生☆夢に向かって！～女性研究者が疑問にお答えします～」

**パネルトーク** コーディネーター **日出間 り氏** (山形大学大学院理工学研究科研究員)

〈パネリスト〉

**石島 智子氏** 「私の仕事・研究・家庭」  
【東京大学大学院農学生命科学研究科特任助教】  
東京農業大学農学部栄養学科管理栄養士専攻卒業後、シダックスフードサービス株式会社就職し、栄養士として病院食の提供に従事しました。その後、大学院を修了し、東京大学大学院農学生命科学研究科リサーチフェロー・特任研究員を経て現職に。博士（食品栄養学）・管理栄養士。現在、2歳の女の子の育児と仕事を両立しています。

**はやのん氏** 「漫画で理系女性を応援する」  
【理系漫画家】  
1975年生まれ、36歳。沖縄の石垣島で育ちました。琉球大学理学部物理学科卒。子供の科学『GOGO! ミルポ』、日刊工業新聞『キラリ研究開発』など科学のおもしろい話題を漫画で紹介するのが仕事です。公益社団法人 応用物理学会 人材育成・教育事業委員、NPO法人 物理オリンピック日本委員会発起人。

**渡辺 絵理子氏** 「ラ・フランス、サクランボから化粧品を開発」  
【元機能性ペプチド研究所（山形市）研究員・現山形大学基礎教育院准教授】  
研究テーマは「ヒト皮膚細胞に対する植物由来成分の機能性」。平成23年、ペプチド研と日東ベスト（釧路江市）との共同研究で、山形県の特産ラ・フランスやサクランボの中に、皮膚の新陳代謝促進や保湿成分合成促進の作用があることを発見しました。博士（理学）（1997年大阪大学）

〈女子高校生〉  
山形県立山形東高等学校（2年）佐藤可奈子 さん  
（2年）松澤 裕梨 さん  
山形県立山形西高等学校（1年）薬田 季子 さん  
（1年）深瀬 葉月 さん

閉会挨拶 山形大学副学長 北野 通世  
情報交換会 リハーサル室（2階）



高校生とゲストとのパネルトーク



## パネルトーク「女子高校生☆夢に向かって！ ～女性研究者が疑問にお答えします～」に参加した高校生の感想

### ◎山形県立山形東高等学校2年 佐藤可奈子さん

私は将来、研究の道へ進もうなどと考えて理系を選択したわけでもなく、ただ漠然と理系女子になっていただけでした。今回、この男女共同参画シンポジウムに参加するというチャンスをいただき、第一線で理系女子として活躍されている先生方のお話を聞くことで、自分の将来のことを考えるきっかけともなりました。

先生方の話から、研究などを通して新しい発見をしていくことや、今までになかったものを創り出していくということに面白さがあるのだと感じました。そして、そのことが研究をする魅力なのではないかと思いました。女性だからこそ持っている視点もあるのだと思います。

これから進んでいく道を考えて時に、研究職に就いてみたいという気持ちが大きくなっているのを感じました。このシンポジウムに参加して、自分の将来をよく考えることができよかったです。

### ◎山形県立山形東高等学校2年 松澤 裕梨さん

シンポジウムに参加するまで、研究者の方たちがどのような環境のもとで研究を行っているのかということには分かりませんでした。しかし、3人の方とのパネルトークを通して研究者という職への理解が深まりました。研究者の方の中には、育児と仕事をしっかり両立している人が多くいるということを知り、研究室の環境が良いものなのだと思います。また、地方よりも大都市の方がより研究がしやすいのではないかと考えていましたが、そのようなわけではなく、地方でも自分の思うように研究ができるということを知り、山形でも数多くの研究がなされているのだらうと思いました。理系の女性の活躍を知り、とても影響を受けたので、自分も頑張ろうと思います。



### ◎山形県立山形西高等学校1年 柴田 季子さん

女性研究者の話の直に聞くことができる、また、質問したり同じような思いを持った高校生とも話ができるというようなことを知り、このシンポジウムに参加しました。私は将来、研究者という職業に就きたいと思っています。ですから、現役の女性研究者の皆さんの話を聞けたことはとてもうれしく思いました。3人の話から、3人それぞれに女性研究者であることに誇りをもっているように感じました。私もそのような気持ちを持ちたいと思います。女性ならではの苦労や子育てとの両立など大変なことを聞くことができたのも、この企画ならではのからだだと思います。そのような企画に参加することは良い経験になったと思います。

理系に進む人や研究者になる女性は少ないと思いますが、なりたいという気持ちをしっかりとって、勉強をがんばっていきたいと思います。

### ◎山形県立山形西高等学校1年 深瀬 葉月さん

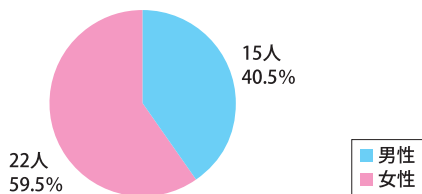
このパネルトークに参加させてもらい、女性の理系の先輩方とお話し、たくさんの感動をもらいました。特に印象深かったのは、語ってくださった3人の女性の先輩方の姿がとても生き生きとしていたことです。そして驚いたことが、理系への道の1つに理系まんが家というものがあったことです。私は理系の大学から進む将来といったら大学院生や研究者、公務員といったものしか思いつかなかったのでもともと興味をもちました。私の中で理系に対しての新たな道が大きく開かれました。このパネルトークに参加し、私の中の理系への進学への不安が大きな希望へと変わりました。3人の先輩方とお話したこと、この会に参加させていただいたこと、本当にありがとうございました、自分の夢を叶えるために、たゆまず努力していこうと思います。



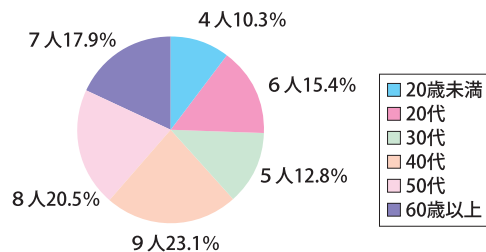
アンケート結果（43人回収）：

回答者の90.9%が有意義だったと回答

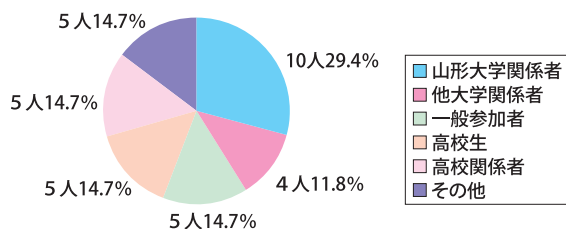
①参加者の性別



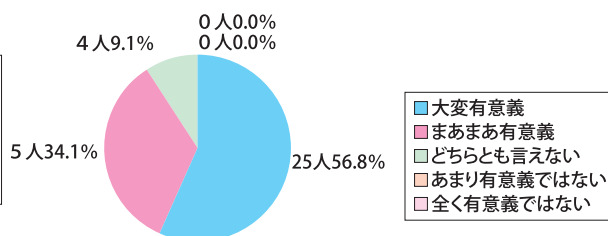
②参加者の年齢



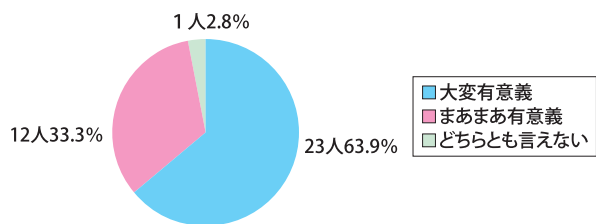
③参加者の所属



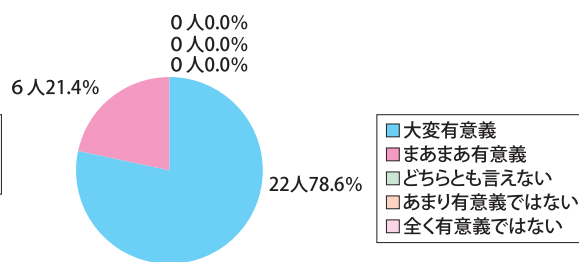
④シンポジウム全体の感想



⑤第1部パネルディスカッションの感想



⑥第2部パネルトークの感想



⑦要望や感想

- ・働く女性としてかかえる問題は、どの社会でも同じであることを感じた。せっかく培った専門職を、結婚、出産、介護などで、中断することのないよう、女性本人も勿論のこと、男の意識を変えていく必要があると常々感じている。ただ、育児に於いては、どうしても親でないとダメな時期（おろそかにしてはいけない時期）があると思うので、そのところをどうしていくかが大きな現実の課題だと思っている。仕事をしながら子供を育ててきた私としては、正直、今の若いお母さん方にもっとしっかり子育てをやってもらいたい…と思っている（一時期なので）
- ・全体の構成がよかった。時間管理もよかった。基調講演については、よく勉強しておられ、信

頼できる説明であった。パネルディスカッションは、多様な高等教育機関の話が聞けて良かった。パネルトークは、講師3人の選び方がよかった。高校生がひたむきで胸がうたれた。取組紹介のサブコーディネーターの報告が優れていた。経年調査（量的）と聞き取り調（質的）で、学内の状況が立体的に浮かび上がったと思われる。経年調査で成果が表れてるところは、遠慮されずに、本事業の効果と判断してよいのではないか。小規模な大学で落ち着いた立地条件もあり、都心の大規模大学よりも、推進室の活動の成果がより顕著に表たのではと思われる。今後がんばってください。

- 山大での取り組み、3年間で終わりではなく、ずっと続けて欲しい。高校の現場では、ほとんど知られていません。理系女子を増やすには、例えば今日のような女性研究者が高校に行って、講演会や出前授業の形で話をして生徒が質問するということを毎年（高校は違うところに行って）続けることがいいと思います。
- 大学コンソーシアムで女性教職員の声に対して、本気になって改善に取り組んでいただくことを希望します。
- コンソの事業に参考になりました。ありがとうございます。
- まだまだ女性の立場が弱く山形は特に大変である。大学自ら実践しさがけていただき、企業のオーナーに対し啓蒙してしていただき、女性が働きやすい住み良い社会をめざしていただきたい。道は遠いが若い男女に早くから教育することにより意識は変わるのではないだろうか。その為に大学の働きは大きいと思うのでガンバッテください。
- 話題が豊富で素晴らしいシンポジウムでしたが、参加者が少なかったのは、とても残念でした。
- パネルトークが、自分の異分野のお話ばかりだったので、文系女子の憧れも含めておもしろかった。
- 夢をもって学んでいる生徒が、本心（興味）を探るところがよかった。
- 理系を志望する女子生徒が増加している。このようなシンポジウムをもっと広げてもらいたい。
- 参加者の少なさにびっくりしました。残念です。大学生の参加者、特に第2部においては、もっと高校生の参加（聴衆）があっても良かったのではないかと思います。
- もっと早い時期の方が高校生を参加させやすいと思います。文理選択の参考とか、天気の問題とか。
- 女子高生へのパネルトークってなかなかないので楽しかったです。ありがとうございました。
- 高校生に話をするのに、一本道を歩んでこなかった人を選んだのが良かったと思う。人生そんなに早くから確定はしない。
- 県や市の教育庁、教育委員会からもっと参加者があれば良かった。現実には高校1年の6月に文理選択をしてしまうので、中学時代から高校入学後すぐに今日のような話を聞かせたい。また、今日は多くの県立高校が就学旅行に出かけているので、2年生は山東しかこれなかったのではないか。スケジュール（修学旅行とかぶらないように）の再考を望みます。
- 工業系の高校にいて、今年受験でデザイン関係の学校に進むので、はやのんさんの理系漫画家という道は、私にとっても新しい道を知ることができました。

## 第5回 男女共同参画推進総括シンポジウム

「山形ワークライフバランス・イノベーション」の発展に向けて

日時：平成24年3月8日（木）13：30～17：00

場所：山形国際ホテル（山形市香澄町3-4-5）

参加人数：94人

基調講演：山村康子氏（独立行政法人科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管）

題目：「女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス」



山村康子氏の講演



参加者94人

山形大学  
文部科学省科学技術人材育成費補助金  
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

男女共同参画推進総括シンポジウム  
**「山形ワークライフバランス・イノベーション」の発展に向けて**

日時 2012.3月8日(木)  
13:30~17:00(開場13:00)  
会場 山形国際ホテル 2階平成東

参加無料  
託児無料  
(託児申込締切 3月1日)

◆基調講演 (13:40)  
**「女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス」**  
山村康子氏(独立行政法人科学技術振興機構 科学技術システム改革事業プログラム主管)

◆山形大学の報告 (14:10)  
**「山形大学における男女共同参画の成果と課題」**  
◆全学としての報告 ◆各学部等からの報告

◆パネルディスカッション (16:00)  
**「なぜ大学は女性教職員・女性研究者を支援するのか」**  
パネリスト  
・工藤 敦和氏 [東北公益文科大学助教授]  
・小川真里子氏 [三重大学(前)女性研究者支援室長・教授]  
・北川 麗子氏 [佐賀大学女性研究者支援室副室長・教授]  
・河野 銀子 [山形大学地域教育文化学部准教授]  
コーディネーター・高木 直 [山形大学地域教育文化学部教授]

◆情報交換会 (17:30)  
情報交換会参加申込締切 3月1日(木)

お問い合わせ・お申込み先  
山形大学男女共同参画推進室  
TEL.023-628-4937 FAX.023-628-4014  
E-mail danjo@pm.kj.yamagata-u.ac.jp  
HP http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/  
主催/山形大学 ©後援/山形県・山形市・大学コンソーシアムやまがた

会場MAP

### 講演要旨：

1. 日本の女性研究者の現状、2. 政策としての女性研究者支援、3. 女性研究者研究活動支援事業（旧女性研究者支援モデル育成）、4. 女性研究者支援とワーク・ライフ・バランス、について講演が行われた。

「科学技術系専門職を対象に女性研究者が少ない理由を問うた大規模調査の結果、『家庭と仕事の両立が困難』『育児期前後の復帰が困難』が最も大きな理由であった。女性研究者支援にはワーク・ライフ・バランスの推進が不可欠であることから、政策として女性研究者の両立支援が行われた。

ワーク・ライフ・バランスをめぐる日本の状況は先進国と比較して低水準である。全教職員の支援も求められる」という指摘があった。



山形大学の報告

(左から) 全学…北野通世 (男女共同参画推進室長)



人文学部…北川忠明 (副学部長)  
 地域教育文化学部…伊藤清郎 (副学部長)  
 理学部…河村新蔵 (副学部長)  
 医学部…鈴木匡子 (教授)  
 工学部…神戸士郎 (副学部長)  
 農学部…阿部利徳 (副学部長)

基盤教育院…グリнда ラインホルト ヨーゼフ (准教授)

全学としての取組…北野通世 男女共同参画推進室長

主な取組

- ・ 推進体制の確立とコーディネーターの配置
- ・ 「山形大学男女共同参画基本計画」の策定 (平成22年6月)
- ・ 「基本計画」に基づく10ヶ年の行動計画の基本施策や制度の確立
- ・ 県内高等教育機関や大学コンソーシアムやまがたとの連携開始

今後の計画

- ・ 推進体制の維持、推進室の継続 (一部縮小)
- ・ 「基本計画」(平成22～31年度)に基づく行動計画の実施
- ・ 両立支援 (研究継続支援員・託児サポーター等) 制度の継続
- ・ 小白川キャンパス保育所の検討継続

人文学部…北川忠明 副学部長

主な取組

- ・ 現在、女性教員比率12.5%。不利な地理的条件が大きな要因
- ・ 推進体制として4名の委員による男女共同参画推進検討部会設置
- ・ 採用人事の応募者男女数データを保存
- ・ 男女共同参画について学生・教職員向けリーフレット作成中

今後の計画

- ・ 推進体制の維持・拡充を検討中
- ・ 環境整備 (会議の終了時刻の遵守、時間外労働の抑制、テレワークの促進、育児介護中の職員の短時間勤務制度の促進等)
- ・ 男女共同参画リーフレットの活用

地域教育文化学部…伊藤清郎 副学部長

主な取組

- ・ 地域教育文化学部男女共同参画推進委員会を設置
- ・ 学部内各種委員会に女性を登用し、人材育成を推進
- ・ 学長・学部長と女性研究者との懇談会を実施
- ・ オープンキャンパスでの男女共同参画推進啓発パネル展実施

今後の計画

- ・ 学部としてのワークライフバランスの具体的検討の実施
- ・ ワークライフバランスの実現と教職員数減少の問題の直視
- ・ サバティカル制度の運用と女性の利用促進により魅力アピール
- ・ 出前授業や女子高校生向けセミナーで学部の魅力を伝える

理学部…河村新蔵 副学部長

主な取組

- ・ 現在、女性教員3人 (4.2%)、公募への女性の応募比率は6.2%
- ・ 公募要領に「男女雇用機会均等法実施の取組」を明記
- ・ 「理系女子」(テレビやコミック等)への注目に関連して、女子高校生・大学生・一般を対象にセミナーの実施

今後の計画

- ・ 学部としてあるいは学会としての取組 (女性研究者が働きやすい環境づくり、女性研究者の可能性の拡大、女性が研究することへの偏見や誤解の除去) の促進
- ・ 女性研究者の裾野拡大の取組継続

医学部…鈴木匡子 教授

主な取組

- ・ 女性医師・看護師サポートの取組 (24時間保育、短時間勤務、研究継続支援員制度、メンター制度)
- ・ 再就職のためのリフレッシュ教育、高度医療への専門教育実施
- ・ 女子高校生・医学生へのセミナーや懇談会による裾野拡大

今後の計画

- ・ これまでの取組の継続
- ・ 新たな取組 (常勤短時間雇用の実現、女性医師の生涯教育支援看護師のキャリアアップ[専門・認定看護師等])
- ・ 24時間保育所の定員増の検討

工学部…神戸士郎 副学部長

主な取組

- ・ 現在、女性教員5人 (2.8%)、2012年1月女性教授を1人採用
- ・ 8学科の内バイオ化学工学科を希望する女性が増えている
- ・ 学長・学部長と女性研究者等との懇談会を開催
- ・ 女性研究者裾野拡大セミナーを開催

今後の計画

- ・ これまでの取組の継続
- ・ 女性研究者が働きやすい環境の整備
- ・ 女性研究者の声を聴くための懇談会の開催継続
- ・ 女子高校生・大学生対象の女性研究者裾野拡大セミナーを継続

農学部…阿部利徳 副学部長

主な取組

- ・ 男女共同参画推進委員会委員を中心とする推進体制の確立
- ・ 農学部女性研究者と学長・学部長との懇談会の開催
- ・ 学生対象講演会「女性研究者として歩んできた道」実施
- ・ 女子高校生向け実験セミナーの開催

今後の計画

- ・ 委員を中心とする推進体制の継続
- ・ 女性研究者が働きやすい環境の整備
- ・ 女性研究者の声を聴くための懇談会の開催継続
- ・ 女子高校生・大学生対象の女性研究者裾野拡大セミナーを継続

基盤教育院…グリнда ラインホルト ヨーゼフ 准教授

主な取組

- ・ 現在、女性教員割合42.9%
- ・ 推進体制として、専任教員懇談会で意識の共有を図り、基盤教育院会議で、部局としての企画・立案を行い推進している
- ・ 学長・学部長と女性研究者との懇談会を2回実施

今後の計画

- ・ 男女共同参画推進体制の維持
- ・ 全学委員会や基盤教育院のディレクター・サブディレクター等への女性教員の登用を図る
- ・ 男女共同参画シンポジウムやセミナー等への参加を配慮する

## パネルディスカッション

テーマ：「なぜ大学は女性教職員・女性研究者を支援するのか」



パネリスト（左から）

工藤 教和氏（東北公益文科大学副学長）

小川眞里子氏（三重大学(前)女性研究者支援室長）

北川 慶子氏（佐賀大学女性研究者支援室副室長）

河野 銀子（山形大学地域教育文化学部准教授）

コーディネーター

高木 直（山形大学地域教育文化学部教授）

パネリストの発表要旨：

**工藤 教和氏（東北公益文科大学副学長）**

「東北公益文科大学の男女共同参画の現状—地方小規模大学の現状と課題—」と題してご発表があった。平成20年度採択の慶応義塾大学女性研究支援事業「ソーシャルキャピタルを育む女性研究者支援」のご経験を踏まえ、男女平等の建学の精神と「学問の自由」を出発点とする女性研究者支援の意味について語られた。

**小川眞里子氏（三重大学(前)女性研究者支援室長）**

平成20年度採択事業「パールの輝きで、理系女性が三重を元気に」のご経験から、地域性を踏まえた県内高等教育機関等との連携による女性支援の意味が語られた。三重大学の女性教員の増加だけでなく、三重県内他機関への波及効果が示された。

**北川 慶子氏（佐賀大学女性研究者支援室副室長）**

平成21年度採択事業「三世代サポート型佐大女性研究者支援」のご経験から、女性が固定的な性別役割を担っている現状がある中で、女性のキャリア確立のために、大学院生・若手研究者・中堅研究者それぞれの支援の必要性や意味が語られた。病児保育について質問があり、定員2人の病児保育実施について補足説明が行われた。

**河野 銀子（山形大学地域教育文化学部准教授）**

山形大学の平成21年度採択事業「山形ワークライフバランス・イノベーション」のプラン作成に携わった河野銀子准教授から、山形大学の状況を踏まえて発表があった。女性教員の採用が珍しかった16年前の着任時と比較して山形大学は確実に変わってきたが、現在、研究で通っている東京大学でも子どもをもつ研究者が働きやすい環境を整えるなど他大学も大きく変化しており、山形大学はまだ努力が必要だ、という指摘があった。

質疑応答：

「女性枠を設けた女性教員採用を行っているか」という質問が出され、三重大学小川氏・佐賀大学北川氏から、そのような採用は行っていないという回答があった。

情報交換会：

県内外の5大学関係者他33人の参加で行われた。

## ①-3 | 男女共同参画フェスタ

「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日が平成11年6月23日であることを踏まえ、内閣府男女共同参画推進本部が定めた男女共同参画週間（毎年6月23日から29日までの1週間）に合わせ、学内学生・教職員、一般の方々を対象にパネル展示や関連図書紹介をメインとする男女共同参画フェスタを開催した。

期 間	内 容	主な会場	参加数
第1回 平成21年6月16日～6月29日	関連図書紹介	附属中央図書館	多数
	上映会	館内シアター	51
第2回 平成22年6月22日～7月5日	パネル展示・関連図書紹介・公開授業	インフォメーションセンター	多数
	映画でおしゃべり男女共同参画カフェ		7
第3回 平成23年6月20日～7月19日	パネル展示・関連図書紹介	インフォメーションセンター	多数
	上手な自己表現セミナーの開催	事務局第1会議室	50

### 第1回 平成21年度男女共同参画フェスタ

日時：平成21年6月16日（火）～6月29日（月）

場所：山形大学附属中央図書館入口及び館内シアター

内容：(1)関連図書紹介

男女共同参画社会の重要なキーワードである「ワークライフバランス」を中心とする最近の文献を紹介

(2)上映会

〈女らしさ／男らしさ〉を再考できるよう、実話をもとにしてジェンダーを意識した上映会を実施。

#### 山形大学 男女共同参画フェスタ 6月16日～29日

内閣府男女共同参画推進本部は、「男女共同参画社会基本法」の公布・施行日である平成11年6月23日を踏まえ、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、様々な取組を通じ、男女共同参画社会基本法の目的や基本理念について理解を深めることを目指しています。

山形大学ではこの趣旨に賛同し、図書館において「男女共同参画フェスタ」を下記の通り、開催いたします。学内はもとより、学外のみなさまのご来館をお待ちしております。

★図書館入り口における文献のディスプレイ【6月16日午後～29日】

男女共同参画社会の重要なキーワードである〈ワークライフバランス〉を中心とする最近の文献を紹介しています。また、図書館所蔵の関連図書を紹介しています。

★館内シアターでの映像資料紹介【6月17日・24日】

〈女らしさ／男らしさ〉について再考できるよう、実話をもとにした上映会を下記の日時で行います。たまには、ジェンダーを意識した視聴をしてみたいかがでしょう。

【6月17日（水）14:40～、17:00～】【6月24日（水）14:40～、17:00～】

## 第2回 平成22年度男女共同参画フェスタ

日時：平成22年6月22日（火）～7月5日（月）

場所：山形大学インフォメーションセンター他

内容：(1)パネル展示

(2)関連図書紹介

(3)映画でおしゃべり男女共同参画カフェ

(4)公開授業

- ・「映画で見る性の多様性」

坂無 淳 助教

6月23日（水）10:30～12:00

基盤教育2号館221教室

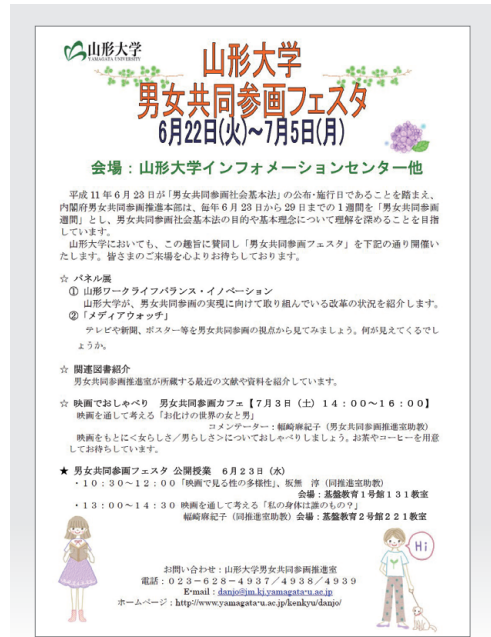
- ・映画を通して考える

「私の身体は誰のもの？」

幅崎麻紀子 助教

6月23日（水）13:00～14:30

基盤教育2号館221教室



ポスター

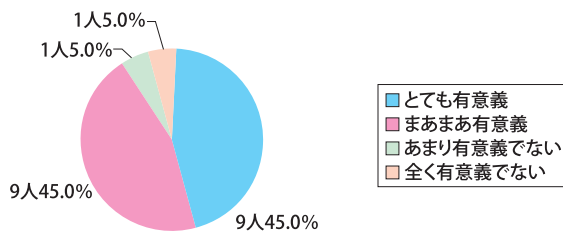


山形大学男女共同参画推進室の取組をパネルで紹介



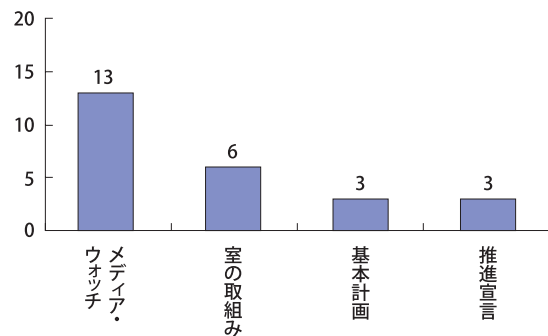
アンケート結果（21人回収）：

①有意義であったか（無回答1人）



②興味深かったパネル

（20人回答、当てはまるもの全て選択）



### 第3回 平成23年度男女共同参画フェスタ

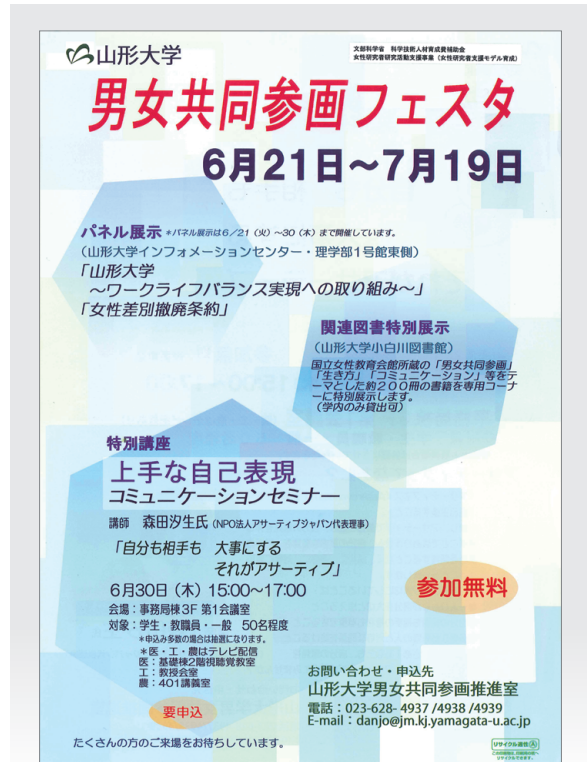
日時：平成23年6月21日（火）～7月19日（火）  
 場所：山形大学小白川図書館・事務局棟第1会議室  
 内容：(1)パネル展示

#### (2)関連図書紹介

国立女性教育会館所蔵の関連図書200冊を、  
 小白川図書館1階の専用コーナーに展示

#### (3)上手な自己表現セミナーの開催

講師：森田汐生氏（NPO法人アサーティブ  
 ブジャパン代表理事）



#### (1)パネル展示



#### (2)関連図書紹介



図書：国立女性教育会館所蔵の関連図書200冊

会場：小白川図書館1階の専用コーナー

主なテーマ：「男女共同参画」「生き方」「コミュニケーション」  
 「セクシャリティ」「大学」

貸出：期間中126回

人気図書：NHK出版編『10パーセント脱力生活：カラダ篇』

諭吉著『ぼく、長女です。』

大橋由香子著『生命科学者中村佳子』

#### (3)上手な自己表現セミナーの開催

講師：NPO法人アサーティブブジャパン代表理事 森田汐生氏

内容：アサーティブ・コミュニケーションについて学び、ロールプレイを交えた具体的なトレーニングを行う。

## ①-4 | 学長・学部長と女性研究者との懇談会

女性研究者が「冷たい環境」におかれ、しかも見えにくい存在となっている現状を払拭し、大学の運営に資することを目的として、各学部等で年1回、学長・学部長と女性研究者との懇談会を開催することとした。

### 平成22年度

#### 学長・学部長と女性研究者との懇談会・日程表

学部名	日時・場所	対象者	懇談会のテーマ	備考
人文学部 講演会＋ 懇談会	7月8日(木) 人文学部第2会議室 講演： 16:20～17:00 懇談会： 17:00～17:30	女性教員・男性教員・ 事務職員、人文学部 学生、他学部の教職 員・学生等、本勉強 会に興味のある方。	「男女共同参画」及び、「ワークライフバランスの実現とそのための施策」等をテーマとした「勉強会」とし、国の施策や他大学の状況と比較しながら、山形大学における男女共同参画及びワークライフバランスの実現のための意見交換を行う。	16:20～17:00 講演会 講師：秋田大学男女 共同参画推進室 准 教授 川畑智子氏 「学術分野における 男女共同参画～秋田 大学の取り組みを事 例に」
地域教育 文化学部 懇談会＋ 懇親会	8月3日(火) 同学部大会議室 16:30～17:30	女性研究者、関心の ある男性研究者、事 務職員	「地域教育文化学部における男女共同参画の推進——働きやすい職場づくりに向けて——」男女共同参画を推進し、働きやすい職場とするためには、どのような点が問題となり、どのような工夫が考えられるかなど、地域教育文化学部における男女共同参画とワークライフバランス等に関する意見交換を行う。	17:30～19:30 懇親会
理学部、 基盤教育院 懇談会	7月9日(金) 理学部会議室1 15:30～16:30	女性教員、基盤教育 院女性教員 他	テーマは特に設けず、自己紹介の後に、自由に意見交換を行う。	
医学部 懇談会 指定討論＋ 自由討論	8月2日(月) 医学部第5講義室 17:00～18:00	医学部及び附属病院 に勤務する教職員	テーマ「医学部における男女共同参画の推進——働きやすい職場づくりを目指して——」 「山形大学男女共同参画基本計画」及び、本学が推進している男女共同参画推進事業についての説明を行った上で、医学部における男女共同参画やワークライフバランス等についての意見交換を行う。	
工学部 講演会＋ 懇談会＋ 懇親会	5月10日(月) セミナー室 15:00～16:30	教職員、博士課程学 生、参加希望者	「女性研究者にとって魅力ある山 大工学部とは」 東北大学女性研究者育成支援推 進室の取り組みについての基調講 演の後、山形大学の魅力ある工学 部づくりに向けて、教員、職員、 学生等、様々な視点から、自由 に意見交換を行う。	15:00～15:30 講演会 講師：東北大学大学 院医工学研究科教授 田中真美氏「東北 大学女性研究者育成 支援推進室の取組～ ハードリング支援事 業からジャンプア ップ事業へ～」 17:00～19:00 懇親会
農学部 懇談会	8月9日(月) 農学部会議室 11:00～12:00	女性教員 他	テーマは特に設けず、自己紹介ののちに、自由に意見交換を行う。	

## 平成23年度

学部名	日時・場所	対象者	テーマ	参加数	その他
人文学部	2月13日(月) 厚生会館 12:00～13:30	女性研究者他	「ワークライフバランスの実現に向けて」	18	学長、学部長との昼食会を兼ねる
地域教育文化学部	8月2日(火) 学部大会議室 16:00～17:15	女性研究者 男女教職員	「ワーク・ライフ・バランスの真の意味とその定着について」を柱に意見交換	27	懇親会 (17:30～19:00) 17人参加
理学部	11月24日(木) S401大講義室 16:00～17:00	女性研究者 男女教職員 学部生・大学院生	テーマは限定せずに自由に意見交換を行う。	20	
医学部	1月12日(木) 医学交流会館 会議室 15:30～16:30	医学部・附属病院の 女性研究者 男女教職員	「ワークライフバランスの実現に向けて」	25	
工学部	2月27日(月) 中示範C 15:00～16:00	女性研究者他	「ワークライフバランスの実現に向けて」	20	
農学部	7月25日(月) 農学部会議室 17:00～18:00	女性研究者 男女教職員	テーマは限定せずに自己紹介後に自由に意見交換を行う。	21	
基盤教育院	6月15日(水) 事務局棟 第2会議室 17:00～18:00	女性研究者他	テーマは限定せずに自己紹介後に自由に意見交換を行う。	16	

## 平成22年度実施 学長・学部長と女性研究者との懇談会の主な内容・出された意見

## (1)人文学部(平成22年7月8日)



川畑智子氏(秋田大学男女共同参画推進室特任准教授)の講演の後、懇談が行われた。「地方で夫婦がお互いに研究を続けていくためには、二人の仕事を見つけること、子どもを預かってくれる所があることが必要だ」という男性教員からの発言もあった。

## (2)地域教育文化学部(平成22年8月3日)



「夫が単身赴任のため、平日は2人の幼児を1人で世話している。子どもの急な発熱で仕事を休むのは難しく、特に教員免許更新講習や入試業務等を担当する時はプレッシャーが高くなる。」「身近に話を聞いてくれる先輩教員がいるので頑張ることができる。」

(3)理学部・基盤教育院（平成22年7月9日）



「女性は、結婚・出産の時期とポストドクで不安的な時期とが重なってしまう。安定した職に就いてしまえば産休・育休でなんとかなるが、ポストドクでは研究から脱落しやすい。またアプライしても業績数を基準に落とされる可能性が高い。検討が必要だ。」

(4)医学部（平成22年8月2日）



山下英俊医学部長、鈴木匡子主任教授、櫻田香教授、平賀愛美講師からの発言の後、自由に意見が述べられた。

「24時間保育には非常に助かっている。子どもはすぐ病気になるので病児に対応できるシステムもあってほしい。」

(5)工学部（平成22年5月10日）



田中真美氏（東北大学大学院医工学研究科教授・山形市出身）による講演後、懇談が行われた。

(6)農学部（平成22年8月9日）



「女性の応募が少ない。女性教員の数を増やすことは積極的にやるべきだが、特別扱いは避けるべきだ。30代の任期付きの研究者は男女を問わず先が分からないという状況があり、そこに問題があると思う。」

## 平成23年度実施 学長・学部長と女性研究者との懇談会で出されてきた意見

(1)人文学部（平成24年2月13日18人参加）



「育休を9月までいただいた。現在は夫が育休中。4月からは一人で子育てなので、入試センター試験の日など大事な時に子どもが熱を出さないか不安がある。病児保育がほしい。」「周りの男性は子育ての話をしていない。関心が無いという人もいる。女性のワークライフバランスのためには男性の理解・関心が大事だ。」



## (2)地域教育文化学部 (平成23年8月2日27人参加)



「かつては2時50分開始の教授会が夜の8・9時まで行われることがあった。今は各種委員会の会議が授業後の夕方にあるので子育て期は時間のやり繰りが難しい。」

「同じ子育て期でも個々にニーズが違う。育児支援はチケット制にして自由に使えるようにした方がいい。」

## (3)理学部 (平成23年11月24日20人参加)



「結婚して子育てもしながら研究している女性の先生が身近にいられるのが心強い。」

「結婚や子育てで仕事を辞めないで、働き続けていただきたい。」

## (4)医学部 (平成24年1月12日25人参加)



「臨床医として働きつつ研究を続けるのは難しい。研究継続支援員制度は大変ありがたい。」

「子どもが小さい頃は保育園があるからよかったが、小学校低学年の頃が手がかかり大変だった。これから介護が必要になってくる。その時々によってニーズが変わってくる。」

## (5)農学部 (平成23年7月25日21人参加)



「子どもを保育園に預けたばかりの頃は、病気で迎えに行くことが多く体力的に限界だった。研究継続支援の存在は大きく助かっている。この制度は継続してほしい。」

## (6)基盤教育院 (平成23年6月15日16人参加)



「採用審査の段階では女性を優遇するということには行っていない。ただ、女性の応募を増やすことが重要だ。」

「そのためには女子学生を育てていく工夫が必要だ。」

## ①-5 | アンケート調査

2008年に男女共同参画推進準備室を実施主体として第1回目の調査を実施し、その後、男女共同参画推進室を実施主体として毎年度、計4回のアンケート調査を実施してきた。毎回、多くの方々(第1回1,661人、第2回1,329人、第3回1,826人、第4回1,510人)に回答頂き、山形大学のワークライフバランスや男女共同参画の状況を把握し、改善策を考える際の基礎的なデータを得ることができた。その調査結果は、毎年度報告書にまとめており、直近の第4回の結果と4回分の結果の経年変化を、本年度の報告書第2部にまとめている。そのため、詳細な調査方法や調査結果については、本年度の報告書第2部を参照頂きたい。

### 調査目的

- ①山形大学のワークライフバランスや男女共同参画に関する実態と意識を量的に捉える。
- ②それらの実態と意識が、3年間の本事業の実施前後で、どう経年変化したか捉える。
- ③調査自体を大学の成員の意識改革の機会とする(全教職員・大学院生が調査対象のため)。

### 調査方法

各回ほぼ同様の調査票を山形大学の全教職員・大学院生に部局毎に配付(各部局総務より)。回収は部局毎に回収ポストなどで回収。分析は山形大学男女共同参画推進室の調査担当スタッフ。

第1回 平成20年12月 教職員・大学院生 回収率45.6%

第2回 平成21年10月 教職員 回収率58.2%

第3回 平成22年10月 教職員・大学院生 回収率48.2%

第4回 平成23年7月 教職員・大学院生 回収率39.1%

### 各年度の調査報告書

**第1回調査結果** 山形大学男女共同参画推進準備室、2009、『男女共同参画に係るアンケート調査集計結果の概要』、<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/old/d-file/20090225.pdf>。

**第2回調査結果** 山形大学男女共同参画推進室、2010、『平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業「山形ワークライフバランス・イノベーション」第2部男女共同参画に係るアンケート結果報告書』  
[http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/newsletter/pdf/pdf20100331/dai2buanke-to.pdf/y21report2\(full\).pdf](http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/newsletter/pdf/pdf20100331/dai2buanke-to.pdf/y21report2(full).pdf)。

**第3回調査結果** 山形大学男女共同参画推進室、2011、『山形ワークライフバランス・イノベーション平成22年度報告書第2部平成22年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書』  
<http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/newsletter/pdf/pdf20110331/2/2full.pdf>。

**第4回調査結果** 山形大学男女共同参画推進室、2012、『山形ワークライフバランス・イノベーション平成23年度報告書第2部平成21～23年度男女共同参画に係るアンケート結果報告書』

## ①-6 | セミナー・講習の開催

教職員・大学院生等を対象にしたセミナーを3回（メンター講習会、博士・ポスドク対象のキャリアセミナー、上手な自己表現セミナー）開催した。

### 1 メンター講習会

女性研究者が人的ネットワークを広げ、職場に適応でき、自立して教育・研究に貢献できるよう支援するため、メンター制度の導入に向けた講習会を各キャンパスで計4回開催した。

日時：平成23年2月2日（水）

- ・16日（水）・17日（木）
- ・18日（金）

各日とも13：00～17：00

場所：米沢キャンパス（2/2）

小白川キャンパス（2/16・18）

鶴岡キャンパス（2/17）

講師：石川邦子氏（ナチュラルウィル有限会社 取締役社長）  
 奥中美香氏（株式会社 キャリア・アド代表取締役）

参加人数：45人（教職員、本学の名誉教授・退職された研究者、大学院生など）

**メンター講習会の開催**

～人を育てる関わり方とは～

新人や若手の育成支援として、近年、企業や大学で注目されているメンタリングについての講習会を山形大学において開催します。これは、身近にロールモデルが少なく孤立感もちやすい女性研究者の支援の一環として開催するものですが、男女にかかわらず先輩（メンター）として若手を育てる関わり方を理解し、具体的なスキルを身につけることを目的として実施します。

**日時・会場 2011年2月開催**（各回とも内容は同じです。）

キャンパス	期 日	時間（4時間）	会 場	講 師
米 沢	2月 2日（水）	13:00-17:00	工学部第一応接室	石川氏
小白川（飯田を含む）	2月16日（木）	13:00-17:00	事務局棟第一会議室	奥中氏
鶴 岡	2月17日（木）	13:00-17:00	農学部会議室	石川氏
小白川（飯田を含む）	2月18日（金）	13:00-17:00	事務局棟第一会議室	石川氏

**講師：**（財団法人 21世紀職業財団）  
 ○石川邦子氏（ナチュラルウィル有限会社 取締役社長）  
 ○奥中美香氏（株式会社キャリア・アド 代表取締役）

石川邦子氏

奥中美香氏

**主な内容：**メンタリングとはなにか・メンターの役割・よいメンターになるにはメンタリングのためのコミュニケーションスキル・事例検討 など

**対象：**教職員、本学の名誉教授・退職された研究者、大学院生、ポストドクターなど受講者の男女は問いません。

申込み：各部署の担当へ  
 締 切：1月20日（木）まで

問い合わせ：  
 男女共同参画推進室 023-628-4937  
[danso@m.kj.yamagata-u.ac.jp](mailto:danso@m.kj.yamagata-u.ac.jp)

内容：	項 目	内 容
	メンタリングとは	メンターの役割、メンター・メンティのメリット
	よいメンターになるには	メンターの基本的態度、メンティからの質問への対応
	メンタリングのためのコミュニケーションスキル	アクティブリスニング、質問手法（コンプリメント・例外さがし・スケールクエスチョン）、キャリア・インタビュー
	事例検討	事例に基づきメンターとしての対応についてディスカッション



米沢キャンパスで開催した講習会  
平成23年2月2日

## 2 上手な自己表現セミナー

自分も相手も尊重した上で、誠実に、率直に、対等に、自分の要望や意見を相手に伝えるコミュニケーション（アサーティブ・コミュニケーション）を学び、ロールプレイを交えた具体的なトレーニングを行った。

日時：平成23年6月30日（木）

15：00～17：00

場所：事務局棟3階第1会議室

講師：森田汐生氏（NPO法人アサーティブジャパン代表理事）

参加人数：50人（学生・教職員・一般）

内容：講演・ロールプレイ

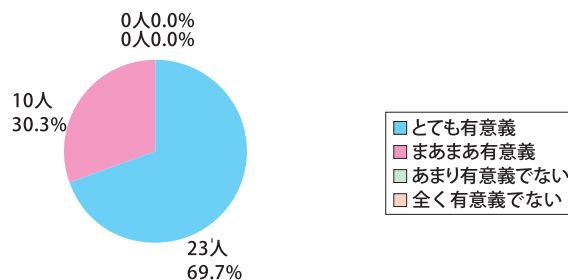


「どのように相手に注意したらよいか」参加者によるロールプレイ

アンケート結果（33人回収）：100%が有意義と回答

①参加は有意義でしたか。

### 今回の特別講義への参加は有意義でしたか。



②要望や感想

- ・参加型でとても体に落ちました。ロールプレイもわかり易くて良かったです。ありがとうございました。
- ・2時間では短いような気がした。何回もやり直す事で良くなっていくのがわかった。
- ・わかりやすく即実践できる内容で大変参考になりました。
- ・これからの人生に生かしていきたいです。
- ・難しいことだとは思いますが、日常生活で行えるよう頑張っていきたいと思いました。
- ・寛容と容認の大切さを改めて思った。
- ・このような講座はもっと多くてよいと思う。一般公開もいいですね。

山形大学  
男女共同参画フェスタ  
上手な自己表現  
コミュニケーションセミナー

自分も 相手も  
大事にする  
それがアサーティブ

平成23年 6月30日(木) 15:00~17:00  
参加無料 ※要申込

事務局棟3F 第1会議室 (医・工・農はテレビ配信あり)  
◎対象：学生・教職員・一般 50名程度  
申込み多数の場合は抽選にさせていただきます。

アサーティブってなあに？  
「アサーティブネス (Assertiveness)」とは・・・  
「自己主張すること」。  
しかし、アサーティブであることは、自分の意見を押し通すことではありません。自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に、率直に、対等に表現することを意味します。  
このセミナーが大切にしていることは・・・  
●一人ひとりが自分を大切に認めること  
●自分の権利も相手の権利も尊重できること  
●多様な価値観の人と対等な関係を築けること  
さあ！あなたも、自分の意見をアサーティブに伝えてみませんか？  
講師 森田汐生氏 (特定非営利法人アサーティブジャパン代表理事)

お問い合わせ・申込先  
山形大学男女共同参画推進室  
電話:023-628-4937/4938/4939  
E-mail:danjo@mj.kj.yamagata-u.ac.jp